

# 漢字クラスにおけるグループ練習

## －グループ練習参加者を対象としたアンケート調査結果－

濱田 美和<sup>1</sup>

### Implementing Groupwork Activities in Kanji Class —Summary of Questionnaire Survey Results—

Miwa HAMADA

E-mail: [hamada@ctg.u-toyama.ac.jp](mailto:hamada@ctg.u-toyama.ac.jp)

**キーワード**：日本語学習者，漢字クラス，グループ練習，教材開発，アンケート調査

**Keywords**：Learners of Japanese, Kanji class, Groupwork, Material development, Questionnaire survey

## I はじめに

日本語教育では中級，上級レベルへと学習が進んだ段階においても文字，すなわち漢字の指導が必要となる。特に中級レベル以降の漢字指導では通常漢字とともに新出語彙の導入もなされるため，学習者は文字と語彙の両方を覚えなければならず負担も大きい。よって，漢字クラスでは学習者が新しく学んだ漢字・漢字語に触れる機会やそれらを使う機会を増やすような工夫が求められる。

筆者らは中，上級レベルの漢字クラス<sup>1)</sup>において，これまで教室外での事前事後学習を含めた，漢字・漢字語学習用教材の開発に取り組んできた（高島・濱田2010）。この中の1つに学習者同士で行うグループ練習用教材の開発がある。中級レベルの漢字クラス（以下，「中級クラス」）では『漢字1000plus INTERMEDIATE KANJI BOOK』vol.1（凡人社），上級レベルの漢字クラス（以下，「上級クラス」）では同教科書 vol.2 を主教材として使用しているが，グループ練習はこれらの教科書の各課の導入漢字や語彙を中心に，漢字・漢字語の読み，意味，用法などの確認するために行うもので，タブレット端末（プレゼンソフトで作成したスライドをiPadで表示）とワークシートとカードを用いて学習者だけで練習

を進めていけるようになっている。

グループ練習は，初めは複式授業に対応するために漢字クラスの教室活動に取り入れたものだが，学習者だけで練習を進めることにより，学習者同士で教え合ったり，他の学習者の反応から自身の読み間違いに気づいたり，明瞭に発音し直したりといった様子が観察された（濱田・高島2013）。グループ練習は学習者が学んだばかりの漢字語を発する機会を増やすのに効果的だと考え，複式授業でない期においても教室活動に組み込んでいる。

本研究では，今後グループ練習の方法および教材を改良していく上での示唆を得るために，これまでにグループ練習に参加した学習者に対するアンケート調査の結果から，学習者がグループ練習をどのように捉えているかを明らかにしたい。

## II 調査の概要

2013年度～2017年度にグループ練習に参加した学習者，中級クラス29人<sup>2)</sup>，上級クラス19人<sup>3)</sup>，計48人に授業最終日にアンケート調査を行った。質問項目はグループ練習のおもしろさと有用性，練習時間の長さや練習方法のわかりやすさ，よかった練習とよくなかった練習，練習による効果，練習のメンバー，練習後のメンバーとの関係で，いずれも選択式（一部選択理由について記述式）で回答してもらった。

<sup>1</sup> 富山大学国際機構

富山大学大学院人間発達科学研究科

### Ⅲ 調査結果

以下、回答者 48 人全員の結果の後、中級と上級、クラス別の結果を示す。学習者のコメントについては、調査票回収時に記入内容の確認をする際に聞き取ったものも含めた。

#### 練習のおもしろさと有用性

「グループ練習はおもしろかったか」という問いに対しては、「とても／まあおもしろかった」という肯定的な回答が大半を占めた（表 1-1）。「グループ練習は役に立ったか」という問いに対しても、「とても／まあ役に立った」という肯定的な回答が大半を占めた（表 2-1）。練習のおもしろさについて「あまり／全然おもしろくなかった」と回答した学習者 2 人は、練習の有用性についてはともに「まあ役に立った」を選んでおり、うち「全然おもしろくなかった」と回答した 1 人は、「漢字の練習だからおもしろいとは言えない」というコメントだった。練習の有用性について「あまり役に立たなかった」と回答した 1 人は「ゲーム自体はおもしろいが、個人的には 1 人で勉強するほうが好き」というコメントで、練習のおもしろさについては「まあおもしろかった」を選んでいた。

クラス別に見ると、練習のおもしろさについては中級クラスと上級クラスであまり差がなかった（表 1-2、1-3）が、練習の有用性については「とても役に立った」と回答した学習者が中級クラスで 3 割、上級クラスで 7 割弱で、上級クラスのほうが高く評価する学習者が多かった（表 2-2、2-3）。

表 1-1 練習のおもしろさ

	人数	(%)
とてもおもしろかった	22	(45.8)
まあおもしろかった	24	(50.0)
あまりおもしろくなかった	1	(2.1)
全然おもしろくなかった	1	(2.1)

表 1-2 練習のおもしろさ・中級クラス

	人数	(%)
とてもおもしろかった	14	(48.3)
まあおもしろかった	13	(44.8)
あまりおもしろくなかった	1	(3.4)
全然おもしろくなかった	1	(3.4)

〈中級クラスの学習者のコメント〉

- ・漢字の練習だからおもしろいとは言えない。

表 1-3 練習のおもしろさ・上級クラス

	人数	(%)
とてもおもしろかった	8	(42.1)
まあおもしろかった	11	(57.9)
あまりおもしろくなかった	0	(0.0)
全然おもしろくなかった	0	(0.0)

表 2-1 練習の有用性

	人数	(%)
とても役に立った	22	(45.8)
まあ役に立った	25	(52.1)
あまり役に立たなかった	1	(2.1)
全然役に立たなかった	0	(0.0)

表 2-2 練習の有用性・中級クラス

	人数	(%)
とても役に立った	9	(31.0)
まあ役に立った	20	(69.0)
あまり役に立たなかった	0	(0.0)
全然役に立たなかった	0	(0.0)

表 2-3 練習の有用性・上級クラス

	人数	(%)
とても役に立った	13	(68.4)
まあ役に立った	5	(26.3)
あまり役に立たなかった	1	(5.3)
全然役に立たなかった	0	(0.0)

〈上級クラスの学習者のコメント〉

- ・おもしろかった。覚えるのは書くのが大事。グループ練習は自然に繰り返すので役に立つ。後で書いて練習しているとき、「グループ練習で出てきた」と思い出すので、覚えやすい。
- ・ゲームはおもしろい。多角的勉強で記憶に残る。
- ・ゲーム自体はおもしろいが、個人的には 1 人で勉強するほうが好き。

## 練習時間の長さと練習方法のわかりやすさ

授業では学習漢字・漢字語の導入、教師主導による練習の後でグループ練習（10～20分）を行っている。練習時間の長さについて、「ちょうどよかった」と「長すぎた」と「短すぎた」の3つの選択肢を用意して問うたところ、「ちょうどよかった」と回答した学習者が9割弱を占めたが、「短すぎた」という回答も1割強見られた（表3-1）。グループ練習は授業の最後に行うことが多く、それまでの導入、練習活動に時間を要した場合は、グループ練習の時間を短くする場合もあることが影響した可能性もある。「長すぎた」という回答はなかった（表3-1）。また、中級、上級クラス間における差は見られなかった。（表3-2、3-3）

表 3-1 練習時間の長さ

	人数	(%)
ちょうどよかった	42	(87.5)
短すぎた	6	(12.5)
長すぎた	0	(0.0)

表 3-2 練習時間の長さ・中級クラス

	人数	(%)
ちょうどよかった	25	(86.2)
短すぎた	4	(13.8)
長すぎた	0	(0.0)

表 3-3 練習時間の長さ・上級クラス

	人数	(%)
ちょうどよかった	17	(89.5)
短すぎた	2	(10.5)
長すぎた	0	(0.0)

次に練習方法に関する回答結果を見ていく。漢字クラスでグループ練習を行うようになったのは2009年度からである。当時は中国語を母語とする学習者が多く、漢字学習の希望者が少なかったことから、漢字クラスは中級と上級の合同授業として開講されていた。そのため、学習者間の習熟度の開きが非常に大きく、複数の教科書を用いて複式で授業を行っていた。複式授業における自習時間を有効に使えるように、学習者だけで行う練習活動として始めたのがグループ練習である。傍らで教師が援助しなくても学習者だけで練習を進めていけるように、練習方法はできるだけ単純に、指示文も平易な日本

語で提示するような教材設計を試みている。本調査で練習方法のわかりやすさについて、「わかりやすかった」と「わかりにくかった」と「どちらとも言えない」の3つの選択肢を用意して問うたところ、「わかりやすかった」という回答が8割以上を占めた（表4-1）。

クラス別に見ると、「わかりやすかった」と回答した学習者は中級クラスで9割弱、上級クラスで8割弱となっており、上級クラスのほうが若干低い（表4-2、4-3）。中級クラスよりも上級クラスのほうが練習内容の難易度が高いため、練習方法も複雑でわかりにくくなっている可能性がある。これまでも教材における練習方法の示し方および練習内容についてはグループ練習中の学習者の様子を観察したり、学習者の意見を聞きながら改良を重ねてきた。「わかりにくかった」と回答した学習者は2015年度前期と後期に各1人いたが、2016年度と2017年度にはいなかった。教材を改訂した効果によるものかもしれない。

表 4-1 練習方法のわかりやすさ

	人数	(%)
わかりやすかった	41	(85.4)
わかりにくかった	2	(4.2)
どちらとも言えない	5	(10.4)

表 4-2 練習方法のわかりやすさ・中級クラス

	人数	(%)
わかりやすかった	26	(89.7)
わかりにくかった	0	(0.0)
どちらとも言えない	3	(10.3)

表 4-3 練習方法のわかりやすさ・上級クラス

	人数	(%)
わかりやすかった	15	(78.9)
わかりにくかった	2	(10.5)
どちらとも言えない	2	(10.5)

## よかった練習とよくなかった練習

グループ練習では、教科書の各課の要点にあわせて、構成要素を組み合わせる漢字を作る（中級クラスのみ）、漢字を組み合わせる漢字語を作る、漢字語の読みや品詞を確認する（品詞は上級クラスのみ）、ヒントや例文を見たり聞いたりして該当する

漢字語を選ぶ、出題者として漢字語および例やヒントとなる文を読む、漢字語をワークシートに書く(上級クラスのみ)といった練習を行っている。課によっては複数の練習を組み合わせる行うこともある。

まずグループ練習の中でよかった練習を3つ以内の複数回答で問うたところ、「漢字語の読みを確認する」を選んだ学習者が6割と最も多く、次が「漢字を組み合わせる漢字語を作る」と「iPad表示のヒントをもとに漢字語を選ぶ」で5割強、続いて「例文中に入る漢字語を選ぶ」と「メンバーが読むヒントをもとに漢字語を選ぶ」が3割だった(表5-1)。

クラス別に見ると、中級クラスでは「漢字語の読みを確認する」を選んだ学習者が7割台半ばと最も多く、「漢字を組み合わせる漢字語を作る」が6割弱、「iPad表示のヒントをもとに漢字語を選ぶ」が4割台半ば、「例文中に入る漢字語を選ぶ」が3割強だった(表5-2)。上級クラスでは「iPad表示のヒントをもとに漢字語を選ぶ」が6割強と最も多く、次が「漢字を組み合わせる漢字語を作る」で4割強、「漢字語の読みを確認する」と「メンバーが読むヒントをもとに漢字語を選ぶ」が3割台半ばだった(表5-3)。このように、全体で最も評価が高かった「漢字語の読みを確認する」は、中級クラスでは7割以上の学習者が選んでいるが、上級クラスで選んだ学習者は4割以下となっており、特に中級クラスの学習者からの評価が高い練習であることがわかる。「漢字語の読みを確認する」練習は他の練習を行う前のウォーミングアップとして取り入れている課が多いが、中級クラスでは繰り返し読み練習が必要な学習者が多いのに対し、上級クラスでは読みについてはある程度覚えられていて練習の必要性をそこまで感じない学習者も一定数いるためだと思われる。

表 5-1 よかった練習 (3つ以内の複数回答)

	人数	(%)
漢字語の読みを確認する	29	(60.4)
漢字を組み合わせる漢字語を作る	25	(52.1)
iPad表示のヒントをもとに漢字語を選ぶ	25	(52.1)
例文中に入る漢字語を選ぶ	15	(31.3)
メンバーが読むヒントをもとに漢字語を選ぶ	15	(31.3)
漢字語や文を読んでメンバーに聞いてもらう	9	(18.8)
構成要素を組み合わせる漢字を作る	8	(16.7)
メンバーが読む漢字語や文を聞き取る	6	(12.5)
答え(漢字語)をワークシートに書く	5	(10.4)
漢字語の品詞を確認する	1	(2.1)

表 5-2 よかった練習・中級クラス

	人数	(%)
漢字語の読みを確認する	22	(75.9)
漢字を組み合わせる漢字語を作る	17	(58.6)
iPad表示のヒントをもとに漢字語を選ぶ	13	(44.8)
例文中に入る漢字語を選ぶ	9	(31.0)
メンバーが読むヒントをもとに漢字語を選ぶ	8	(27.6)
構成要素を組み合わせる漢字を作る	8	(27.6)
漢字語や文を読んでメンバーに聞いてもらう	5	(17.2)
メンバーが読む漢字語や文を聞き取る	4	(13.8)

〈中級クラスの学習者のコメント〉

- ・授業中にもう一回復習する感じで特に読み方を確認するのがよかった。
- ・すべてのグループ練習はよかった。

表 5-3 よかった練習・上級クラス

	人数	(%)
iPad表示のヒントをもとに漢字語を選ぶ	12	(63.2)
漢字を組み合わせる漢字語を作る	8	(42.1)
漢字語の読みを確認する	7	(36.8)
メンバーが読むヒントをもとに漢字語を選ぶ	7	(36.8)
例文中に入る漢字語を選ぶ	6	(31.6)
答え(漢字語)をワークシートに書く	5	(26.3)
漢字語や文を読んでメンバーに聞いてもらう	4	(21.1)
メンバーが読む漢字語や文を聞き取る	2	(10.5)
漢字語の品詞を確認する	1	(5.3)

〈上級クラスの学習者のコメント〉

- ・グループ練習は漢字によく触れることができる。iPadは連想、意味をはっきり理解できる。
- ・iPadは漢字、言葉が一度に全部見えて、操作が簡単なのがよかった。
- ・(メンバーが読む文中の言葉を同音異義語から選ぶ練習について) 言葉をグループで覚えられる。
- ・(答えをワークシートに書く練習について) 覚えるためによかった。

次にグループ練習の中でよくなかった練習を3つ以内の複数回答で問うたところ、「メンバーが読むヒントをもとに漢字語を選ぶ」と「メンバーが読む漢字語や文を聞き取る」が2割強と最も多く、続いて「漢字語や文を読んでメンバーに聞いてもらう」が2割弱だった(表6-1)。

クラス別に見ると、中級クラスでは「メンバーが読むヒントをもとに漢字語を選ぶ」を選んだ学習者が2割台半ばと最も多く、次が「漢字語や文を読

んでメンバーに聞いてもらう」で2割だった（表6-2）。よくなかった理由として、「メンバーが読むヒントをもとに漢字語を選ぶ」練習では“メンバーの声や発音が聞きにくくて理解しにくい”と“練習が難しい”というコメントが複数人から聞かれた。また，“漢字・漢字語を見たほうが覚えやすい”というコメントもあった。「漢字語や文を読んでメンバーに聞いてもらう」練習では“わかりにくいときに英語ができない人へ日本語で説明するのが難しかった”，“忘れた言葉や難しい言葉がある”，“声が聞きにくい”といったコメントがあった。上級クラスでは「メンバーが読む漢字語や文を聞き取る」を選んだ学習者が3割強と最も多かった（表6-3）。よくなかった理由として，“メンバーが違う国の場合にアクセントが聞き取れない”，“相手が言うことを失敗することがある”，“日本人ではない人の読み方だから”といったコメントがあった。全体で一番評価が低かった2つの練習，「メンバーが読むヒントをもとに漢字語を選ぶ」と「メンバーが読む漢字語や文を聞き取る」について，中級クラス，上級クラスともにメンバーの声が聞き取りにくいことや，発音が正確ではないため理解しにくいことが理由として浮かび上がる。さらに中級クラスの学習者にとっては，漢字語を聞くだけで考える練習自体が難しいことも評価の低さに影響したことが窺われる。

表 6-1 よくなかった練習（3つ以内の複数回答）

	人数	(%)
メンバーが読むヒントをもとに漢字語を選ぶ	10	(20.8)
メンバーが読む漢字語や文を聞き取る	10	(20.8)
漢字語や文を読んでメンバーに聞いてもらう	9	(18.8)
漢字語の読みを確認する	3	(6.3)
漢字を組み合わせて漢字語を作る	2	(4.2)
漢字語の品詞を確認する	2	(4.2)
例文中に入る漢字語を選ぶ	2	(4.2)
iPad 表示のヒントをもとに漢字語を選ぶ	1	(2.1)
構成要素を組み合わせて漢字を作る	1	(2.1)
答え（漢字語）をワークシートに書く	0	(0.0)

表 6-2 よくなかった練習・中級クラス

	人数	(%)
メンバーが読むヒントをもとに漢字語を選ぶ	7	(24.1)
漢字語や文を読んでメンバーに聞いてもらう	6	(20.7)
メンバーが読む漢字語や文を聞き取る	4	(13.8)
漢字を組み合わせて漢字語を作る	2	(6.9)
漢字語の読みを確認する	1	(3.4)
例文中に入る漢字語を選ぶ	1	(3.4)
iPad 表示のヒントをもとに漢字語を選ぶ	1	(3.4)
構成要素を組み合わせて漢字を作る	1	(3.4)

〈中級クラスの学習者のコメント〉

- ・（メンバーが読むヒントをもとに漢字語を選ぶ練習について）話すとき，他の人の発音がわからなくて，ヒントがわからない。
- ・（同上）聞きにくいから。
- ・（同上）言葉の意味がわからなかったら，読んで考えるのが難しいから。
- ・（同上）難しかったから。
- ・（同上）iPad で見るほうが覚えやすい。漢字を見ることが大切だから。
- ・（漢字語や文を読んでメンバーに聞いてもらう練習について）ときどきわかりにくいとき，英語ができる人には詳しく説明できるけど，英語ができない人は難しかった。日本語でも説明できるけど，難しい漢字はわかりにくかった。
- ・（漢字語や文を読んでメンバーに聞いてもらう練習，メンバーが読む漢字語や文を聞き取る練習について）ときどき忘れた言葉，難しい言葉，まだ聞いたことがない言葉がある。
- ・（同上）相手と話すとき，声が聞きにくくて理解しにくい。
- ・（メンバーが読む漢字語や文を聞き取る練習について）聞くだけだと覚えにくいから。書くと覚えられると思う。
- ・（漢字を組み合わせて漢字語を作る練習，構成要素を組み合わせて漢字を作る練習について）参加するのが難しかった。iPad をタップすることが調節できればもっといいと思う。何か速かった気がした。
- ・（漢字語の読みを確認する練習について）難しいから。
- ・（例文中に入る漢字語を選ぶ練習について）難しかったから。

表 6-3 よくなかった練習・上級クラス

	人数	(%)
メンバーが読む漢字語や文を聞き取る	6	(31.6)
メンバーが読むヒントをもとに漢字語を選ぶ	3	(15.8)
漢字語や文を読んでメンバーに聞いてもらう	3	(15.8)
漢字語の読みを確認する	2	(10.5)
漢字語の品詞を確認する	2	(10.5)
例文中に入る漢字語を選ぶ	1	(5.3)
漢字を組み合わせて漢字語を作る	0	(0.0)
iPad 表示のヒントをもとに漢字語を選ぶ	0	(0.0)
答え(漢字語)をワークシートに書く	0	(0.0)

〈上級クラスの学習者のコメント〉

- ・(メンバーが読む漢字語や文を聞き取る練習について) ときどき違う国だからアクセントが聞き取れない。
- ・(同上) 相手が言うことを失敗することがある。日本人じゃない人の読み方だから。
- ・(メンバーが読むヒントをもとに漢字語を選ぶ練習について) 相手の話が聞き取りにくい場合はよくなかった。
- ・(同上) 意味をもとに考える練習は翻訳を確認したほうが速いと思う。
- ・(漢字語の読みを確認する練習について) 間違ったら恥ずかしくなるから。
- ・(同上) 次のタスクをする時間が短くなるから。
- ・(例文中に入る漢字語を選ぶ練習について) たまにすべて違う言葉で勉強になったが、大変だった。

### 練習による効果

練習による効果については、①漢字・漢字語に触れる回数の増加、②学習者同士で教え合う中での学び、③ともに学ぶことによる学習意欲の促進、この3つにかかわる選択肢を用意した。①については「漢字(語)を何度も練習して覚えやすくなった」と「例文を見る機会が増えて覚えやすくなった」、②については「メンバーに説明することで覚えられた」と「メンバーに教えてもらい勉強になった」、③については「楽しく勉強できた」、「勉強しようという気持ちになった」、以上6つの選択肢から3つ以内の複数回答で問うたところ、「漢字(語)を何度も練習して覚えやすくなった」を選んだ学習者が7割を超え、最も多かった。「例文を見る機会が増えて覚えやすくなった」が6割で2番目、「楽しく勉強できた」が5割弱で3番目、「メンバーに説明することで覚えられた」が3割弱で4番目に多かった(表7-1)。

クラス別に見ると、中級クラスでは「漢字(語)を何度も練習して覚えやすくなった」を選んだ学

習者が7割台半ばと最も多く、「例文を見る機会が増えて覚えやすくなった」が5割台半ばで2番目、「楽しく勉強できた」が5割強で3番目だった(表7-2)。上級クラスでは「漢字(語)を何度も練習して覚えやすくなった」と「例文を見る機会が増えて覚えやすくなった」の2つが最も多くいずれも7割弱を占め、続いて「メンバーに説明することで覚えられた」が4割台半ば、「楽しく勉強できた」が4割強だった(表7-3)。「漢字(語)を何度も練習して覚えやすくなった」と「例文を見る機会が増えて覚えやすくなった」と「楽しく勉強できた」については中級クラスと上級クラスで大きな差は見られないが、「メンバーに説明することで覚えられた」については中級クラスで選んだ学習者が2割以下なのに対し、上級クラスでは半数近くを占めた。中級クラスより上級クラスのほうが他の学習者に説明する機会が多い、あるいは説明することで漢字・漢字語を覚えられると考える学習者が多いことが窺われる。

表 7-1 練習による効果(3つ以内の複数回答)

	人数	(%)
漢字(語)を何度も練習して覚えやすくなった	35	(72.9)
例文を見る機会が増えて覚えやすくなった	29	(60.4)
楽しく勉強できた	23	(47.9)
メンバーに説明することで覚えられた	14	(29.2)
勉強しようという気持ちになった	12	(25.0)
メンバーに教えてもらい勉強になった	8	(16.7)

表 7-2 練習による効果・中級クラス

	人数	(%)
漢字(語)を何度も練習して覚えやすくなった	22	(75.9)
例文を見る機会が増えて覚えやすくなった	16	(55.2)
楽しく勉強できた	15	(51.7)
勉強しようという気持ちになった	7	(24.1)
メンバーに説明することで覚えられた	5	(17.2)
メンバーに教えてもらい勉強になった	5	(17.2)

〈中級クラスの学習者のコメント〉

- ・他の学生と一緒にするので楽しく勉強できた。
- ・話し合うことが楽しかった。

表 7-3 練習による効果・上級クラス

	人数	(%)
漢字(語)を何度も練習して覚えやすくなった	13	(68.4)
例文を見る機会が増えて覚えやすくなった	13	(68.4)
メンバーに説明することで覚えられた	9	(47.4)
楽しく勉強できた	8	(42.1)
勉強しようという気持ちになった	5	(26.3)
メンバーに教えてもらい勉強になった	3	(15.8)

〈上級クラスの学習者のコメント〉

- ・言葉を知っていても用法がわからないと忘れやすい。  
例文を見ると意味を思い出したり使い方がわかるので  
覚えられる。
- ・説明すると覚えやすい。

#### 練習のメンバー、練習後のメンバーとの関係

グループ練習は人数が4人以上でも練習可能なものも多いが、学習者1人1人の練習機会を増やすため、2～3人で行うのを基本としている。グループのメンバーは、クラスの人数が多い期は毎回メンバーを交替するようにしているが、人数が少ない期は常に同じメンバーで行うこともある。練習メンバーについて、「練習しやすい相手だった」と「練習しにくい相手だった」と「どちらとも言えない」の3つの選択肢を用意して問うたところ、「練習しやすい相手だった」と回答した学習者が8割強を占めたが、残り2割弱は「練習しにくい相手だった」、「どちらとも言えない」という回答だった(表8-1)。

クラス別に見ると、中級クラスでは「練習しやすい相手だった」と回答した学習者が9割を占め、残り1割は「どちらとも言えない」という回答だった(表8-2)。上級クラスでは「練習しやすい相手だった」と回答した学習者が7割弱、「練習しにくい相手だった」が1割、「どちらとも言えない」が2割だった(表8-3)。学習者のコメントを見ると、練習しやすい相手の条件として、中級、上級いずれのクラスの学習者からも、“レベルが同じである”、“仲良くできる”、そして“練習に真面目に頑張っている”ことが挙げられている。さらに中級クラスの学習者からは、“同国人だと、わからないときに母語が使える”ことも挙げられている。「練習しにくい相手だった」と回答した上級クラスの学習者2人からは、“相手との漢字力の差”や“相手が授業準備をしっかりしてきていなかった”ことについてのコメントがあった。「どちらとも言えない」と回答した学習

者の多くは“人によって違う”ことを理由に挙げていた。上級クラスのほうが中級クラスよりも練習メンバーへの満足度が低い学習者が多かったが、既習の漢字・漢字語の知識がより増す上級クラスのほうが学習者間の漢字・漢字語の習熟度の開きが大きく、練習活動に影響を与えるのかもしれない。

表 8-1 練習のメンバー

	人数	(%)
練習しやすい相手だった	39	(81.3)
練習しにくい相手だった	2	(4.2)
どちらとも言えない	7	(14.6)

表 8-2 練習のメンバー・中級クラス

	人数	(%)
練習しやすい相手だった	26	(89.7)
練習しにくい相手だった	0	(0.0)
どちらとも言えない	3	(10.3)

〈中級クラスの学習者のコメント〉

- ・みんなが同じ水準だから。(「練習しやすい相手だった」と回答した学習者)
- ・同じ国なので、よくわからないときには母語を使う可能性があったから。(同上)
- ・みんな親しい短期留学生だから。(同上)
- ・みんなやさしい人だから。(同上)
- ・人によって違う。(「どちらとも言えない」と回答した学習者)
- ・毎回相手を変えたほうがいいと思う。練習に興味がある人、一緒にがんばろうとする人はゲームだから楽しかったらしい。(同上)
- ・いいところもあるし、ちょっと練習しにくいところもある。(同上)

表 8-3 練習のメンバー・上級クラス

	人数	(%)
練習しやすい相手だった	13	(68.4)
練習しにくい相手だった	2	(10.5)
どちらとも言えない	4	(21.1)

〈上級クラスの学習者のコメント〉

- ・日本語のレベルがほぼ同じで、お互いの言う言葉がわかったから。(「練習しやすい相手だった」と回答した学習者)
- ・同じテンポで進んだから。(同上)
- ・グループのみんながとてもがんばっていたから。(同上)
- ・皆真面目だから。(同上)

- ・2人とも仲良くなりやすい人だから。(同上)
- ・漢字能力の高い学生は他の学生を待っていない。(「練習しにくい相手だった」と回答した学習者)
- ・相手は当日にやる授業に予習シート以外の自習しなかったため。(同上)
- ・1人1人のペースは違うので。(「どちらとも言えない」と回答した学習者)

最後に、グループ練習を行ったことによるメンバーとの関係について「前よりも仲良くなった」と「前よりも話すようになった」と「変わらない」の3つの選択肢を用意して問うたところ、「前よりも仲良くなった」と「前よりも話すようになった」のいずれかを選んだ学習者が7割強で、「変わらない」を選んだ学習者が3割弱だった。

クラス別に見ると、「前よりも仲良くなった」と「前よりも話すようになった」のいずれかを選んだ学習者が、中級クラスでは6割強、上級クラスでは8割台半ばを占め、上級クラスのほうが練習後にメンバーとの関係が深まったと答えた学習者の割合が高かった。

表 9-1 練習後のメンバーとの関係

	人数	(%)
前よりも仲良くなった	13	(27.1)
前よりも話すようになった	21	(43.8)
変わらない	14	(29.2)

表 9-2 練習後のメンバーとの関係・中級クラス

	人数	(%)
前よりも仲良くなった	7	(24.1)
前よりも話すようになった	11	(37.9)
変わらない	11	(37.9)

表 9-3 練習後のメンバーとの関係・上級クラス

	人数	(%)
前よりも仲良くなった	6	(31.6)
前よりも話すようになった	10	(52.6)
変わらない	3	(15.8)

## IV まとめ

本稿での調査結果を(i)～(viii)にまとめる。

- (i) グループ練習のおもしろさと有用性については学習者から肯定的な回答が大半を占めた。
- (ii) 練習時間の長さ(10～20分)は適切だったと回答した学習者が多かったが、短すぎたという回答もあった。
- (iii) 練習方法についてはわかりやすかったと回答した学習者が多かったが、上級クラスではわかりにくかったという回答もあった。
- (iv) 学習者から評価が高かった練習は、①漢字語の読みを確認する、②漢字を組み合わせで漢字語を作る、③iPad表示のヒントをもとに漢字語を選ぶ、④例文中に入る漢字語を選ぶ、⑤メンバーが読むヒントをもとに漢字語を選ぶ、だった。①は中級クラスでの評価が高かった。
- (v) 学習者から評価が低かった練習は、①メンバーが読むヒントをもとに漢字語を選ぶ、②メンバーが読む漢字語や文を聞き取る、③漢字語や文を読んでメンバーに聞いてもらう、だった。メンバーの声やの聞き取りにくさや発音の不正確さ、また中級クラスでは漢字語を聞く練習自体の難しさが理由として考えられる。
- (vi) グループ練習の効果については、漢字・漢字語に触れる回数が増えて覚えやすくなったという学習者が多かった。楽しく勉強できたと回答した学習者も半数近くいた。上級クラスでは、メンバーに説明することで覚えられたと回答した学習者も半数近くいた。
- (vii) グループ練習のメンバーについては、練習しやすい相手だったと回答した学習者が多かったが、練習しにくい相手だったと回答した学習者もいた。中級クラスと上級クラスを比べると、上級クラスのほうがメンバーへの満足度が低い学習者が多かった。その理由として、学習者間の漢字・漢字語の習熟度の開きが考えられる。
- (viii) グループ練習後のメンバーとの関係について、前より仲良くなった、話すようになったと回答した学習者が特に上級クラスで多かった。

漢字クラスにグループ練習を取り入れる試みは、漢字・漢字語に触れ覚えやすくなることや、学習者同士で楽しく学べるなど、学習者から肯定的に評価



されていると言えるだろう。ただし、グループ練習の方法や練習内容については改善の必要性が認められた。学習者個人の漢字・漢字語の習熟度、並びに、グループの構成員間の習熟度の開きへの対応がより必要であることが窺われた。中級クラスと上級クラスそれぞれの学習者に合ったグループ練習の方法および教材の改良を今後進めていく計画である。

## 謝辞

本アンケート調査の実施においては高畠智美氏に多大なご協力をいただいた。記して感謝する次第である。

## 参考文献

- 高畠智美・濱田美和（2010）：複数レベルの学習者を対象とした漢字クラスの授業改善及び教材開発—学習者の学びの活性化のための試み—，富山大学留学生センター紀要，第9号，9-18.
- 濱田美和・高畠智美（2013）：複式漢字クラスにおけるグループ練習の有効性．2013年度日本語教育学会秋季大会予稿集，377-378.

## 注

- 1) 日本の大学で外国人留学生向けに開講されている日本語プログラムの授業で，前期と後期にそれぞれ90分×15週間行われる。交流協定校からの短期留学生，日本語・日本文化研修留学生，大学院生，研究生等が受講している。
- 2) 中級クラスの学習者29人の出身国・地域別内訳は韓国6人，ロシア6人，ブラジル3人，ベトナム3人，インドネシア2人，台湾2人，アメリカ1人，イタリア1人，スリランカ1人，タイ1人，中国1人，フィンランド1人，モンゴル1人である。受講した期は2013年度前期が3人，後期が2人，2014年度後期が7人，2015年度後期が5人，2016年度前期が6人，後期が3人，2017年度後期が3人である。
- 3) 上級クラスの学習者19人の出身国・地域別内訳はロシア7人，台湾3人，韓国2人，スリランカ2人，ベトナム2人，ブラジル1人，フランス1人，モンゴル1人である。受講した期は2014年度前期が3人，後期が3人，2015年度後期5人，2016年度前期が2人，2017年度後期が6人である。

## 付記

本稿は科学研究費補助金基盤研究（C）「グループ練習活動を取り入れた漢字授業のデザインと教材開発」平成27-30年度（課題番号JP15K02636）による成果の一部である。

（2018年5月18日受付）

（2018年7月19日受理）